



寺子屋、福先生のつぶやき ⑥
世界一の自分を見つけよう

家庭教育支援ラボ 寺子屋「福」主宰 龍福 史朗

1番を目指さなければ
2番も3番もない

10年近く前になりますが、世界トップを目指す日本のコンピューター開発をめぐる予算折衝の会議で「なぜ1番じゃなければいけないのですか」と、ある政治家が発言し、話題になりました。この発言に、コンピューター技術者や科学者が激しく反発したことは記憶に新しいと思います。私は、この反発は当然であると思います。『1番を目指さなければ2番も3番もない』との思いは今も昔も変わっておりませんし、私の教育的信念でもあります。1番を目指すことの教育的価値は高く、子どもたちの将来を大きく左右するからです。

私たちの周りは『1番』に
溢れており、無限に存在する

私は、千人の子どもがいれば千通りの『1番』がある！と思っています。40人学級でチャンピオン大会をやれば、40通りのチャンピオンが簡単に生まれます。たと



えば、クラスで1番字がうまい！クラスで1番歌がうまい！……そろばんが、駆け足が、縄跳びが、持久走が、平泳ぎが……などなど、数えたらきりがありません。

さらにすそ野を広げれば、地域の将棋クラブで1番、地域のお囃子クラブでの太鼓のバチさばきが1番など、とにかく子どもたちの1番は無限に存在します。こうした1番は無限に存在します。しかも、『1番』を目指して頑張っている人は、よく見ると、皆さんの周りにたくさんいることに気がきます。たとえば、行きつけのラーメン屋さん、ケーキ屋さん、パン屋さんのご主人などです。

さらに息子の大好きな幼稚園の先生は世界一やさしい先生を目指しているのかも知れませんが、いつも忙しく働くお父さんは世界一の大工さんを目指しているかも知れません。また、日本は技術立国ですから世界一の技術をする企業は数多く存在します。このように見習うべき『1番』は、私たちの周りに限りなくあるのです。

1番を目指すことによって身に付く、
たくましく生きる自信と意欲

私たちは生きていく限り、常に競争の荒波にさらされています。この競争に打ち勝つためには、自分の個性や才能を見極め、努力を傾注することが必要です。自分の好きなことや得意分野であれば、勝ち残る確率も高くなるでしょう。また、視点を変えてナンバーワンを目指せば、様々な分野での1番の枠は空いているのではないのでしょうか。しかも1番を目指して頑張ることは、前号で取り上げた『長期的幸福度』にも深く関わっています。

過去に描いていたおぼろげな夢は、1番を目指すことによつて、一気に現実化します。そして、より身近で具体性を帯びるので、それに立ち向かう勇氣と意欲が格段に増強されます。このことが、たくましく生きる真の力になるのです。
子どもたちは、『1番の可能性』を見つけ、育んでくれた親や指導者のことは生涯忘れることはないでしょう。このことを肝に銘じて、我が子の『1番』を見いだし、育てることに全力を尽くしましょう。

